

文字による対話支援サポーター養成事業（第3期）

目的

音声情報を文字情報にする対話サポート（文字通訳）は、聴覚障がいにとどまることなく知的障がいのある方にも有効で、障がいの種類・有無だけではなく小さなお子さんから高齢者の方にも有効です。また、グローバル社会に伴い、播磨町内にも多国籍の方が増えています。一般に使われる音声認識からの翻訳は簡易的な活用です。正しい文字入力により翻訳機能を活用することで、リアルタイムに正しい情報を伝えることが可能になります。便利に使うだけでなく、しっかりした活用方法を身につける対話サポーターの養成を目指します。サポーターが増えることで、世代・地域（国籍）・障がいを越えて、播磨町を誰にとっても暮らしやすい、やさしい町にしていきたい。誰一人、情報から取り残されることのない共生社会を目指し、この取り組みを播磨町から発信する。町内の研修会等で文字通訳を実施・町民の方に知っていただく機会を増やしたい。また、コロナ感染防止により、オンラインでの研修会等も定着つつあり、さらに置き去りになる人々が増えている現状にも、向き合いたい。これらの目的達成のために、継続した長期的な事業として位置づけ、令和元年からの継続した取り組みとして定着・発展させたい。この講座では、手書き・PC 連携入力により、音声文字にする技術の修得はもとより、補聴器機などの活用、現場に必要な機材の設置などハード面の実習を実施してきたが、会場とオンラインを合わせたハイブリッド型のセミナーにも対応する配信技術の取得を目指し、今期より新しくハイブリットコース新設を試みた。

注）本事業（対話サポーター養成事業）の受講生が、意思疎通支援事業（いわゆる公費派遣など）の担い手としての活動も目指す場合は、別途、要約筆記者養成講座の受講が必要となります。

活動記録

今年度の活動は以下の通り実施しました。

- ・実施期間： 令和3年8月26日（木）～令和4年3月31日（木）
- ・場 所： 播磨町福社会館 他
- ・参加人数： 延べ194名（うち、連続講座登録者 計7名）
- ・主 催： チームW（うえすと）・研修センター
- ・取組内容：

- ① 2期までの連続講座3コースに加え、情報配信を学ぶハイブリットコース新設。
ポイントテイクに音声認識を組み込み、PC 連携入力（初級・応用）と再編成で実施。
- ② 一般の方も参加できるオンライン併用公開講座を合計3回実施。
- ③ 地域の ZOOM 開催の研修会のサポートを実施。
- ④ 音声を文字に、さらに多言語対応（日本語→英語）の検証。

ハイブリット コース 第1木曜 午後 13 時～15 時	各コース 全5回
ポイントテイク コース 第3木曜 午前 10 時～12 時	3コース合同 模擬実習 全3回
PC 連携入力 コース(基礎・応用) 第3木曜 午後 13 時～15 時	公開講座 全3回

(全講座 オンライン・会場参加併用)

日 程	事業内容	実施場所	対 象	
			受講生	一般
令和3年 8月26日(木) 13:00-15:00	公開講座① (プライベート)	播磨町福祉会館		25名
9月16日(木) 13:00-15:00	開講式・合同講座①	播磨町福祉会館	7名	8名
10月7日(木) 13:00-15:00	ハイブリットコース② 機材の知識	播磨町福祉会館	7名	10名
10月9日(土) 13:00-15:00	公開講座②(ユニバーサルデザインを学ぶ 建築設計士の視点からのまちづくり)	播磨町福祉会館	7名	25名
10月21日(木) 10:00-12:00	ポイントテイクコース② 参加の保障・伝える(パイプ役)	オンラインのみ	3名	
10月21日(木) 13:00-15:00	PC 連携入力 コース(基礎・応用)② 話し言葉と書き言葉	オンラインのみ	7名	
11月4日(木) 13:00-15:00	ハイブリットコース③ 機器を接続してみよう	播磨町福祉会館	7名	
11月25日(木) 10:00-12:00	ポイントテイクコース③ 書いてみよう・音声認識の基本	播磨町福祉会館	7名	
11月25日(木) 13:00-15:00	PC 連携入力 コース(基礎・応用)③ 入力技術の基礎	播磨町福祉会館	7名	
12月2日(木) 13:00-15:00	ハイブリットコース④ 配信をしてみよう 1	播磨町福祉会館	7名	
12月16日(木) 10:00-12:00	ポイントテイクコース④ 利用者と共に・音声認識活用	播磨町福祉会館	7名	
12月16日(木) 13:00-15:00	PC 連携入力 コース(基礎・応用)④ 話に追いつく・事前準備	播磨町福祉会館	7名	
令和4年 1月20日(木) 13:00-15:00	3コース合同 模擬実習①	播磨町福祉会館	7名	1名
2月3日(木) 13:00-15:00	ハイブリットコース⑤ 配信をしてみよう 2	播磨町福祉会館	7名	1名
2月17日(木) 10:00-12:00	ポイントテイクコース⑤ 音声認識-修正をしながら	播磨町福祉会館	7名	
2月17日(木) 13:00-15:00	PC 連携入力 コース(基礎・応用)⑤ 話に追いつく・チームワーク	播磨町福祉会館	7名	

3月3日(木) 13:00-15:00	3コース合同 captiOnline4 ワークショップ	オンラインのみ	5名	8名
3月12日(土) 9:00-14:00	現場体験実習(模擬実習②) 障害を考える公開セミナー	ウイズあかし704 室	4名	
3月17日(木) 13:00-16:30	現場体験実習(模擬実習③) 終了式	チームW・研修セン ター事務所	3名	
3月31日(木) 13:00-16:30	公開講座③ アーカイブ作成の個別収録 (補講として)	チームW・研修セン ター事務所	3名	

成果

1期から継続した3期を終えて、音声情報を文字情報にする技術、PC 連携入力では、まだ経験が浅いといえども、2期での修得を活かした受講生が新受講生へのフォローができ、受講生の連携・全体のレベルアップのスピード感が生まれたのは、継続した事業での最大の成果ではないかと感じます。また、継続したことでマニュアルの充実もはかれた。IT の進化により、プロ仕様でなくても手元にある PC やビデオカメラなどを駆使しながら配信できることで、ハイブリットコースでは、配信技術の修得を取り入れることができた。実習の中では、たくさんの失敗をかさねながら、ノウハウも見つけることができた。プロの講師のもとで現場実習ができたことは貴重な体験となり、その場を提供していただいた方々に感謝いたします。映像配信時には文字がついていることで、文字の効果も伝わりやすく、対話サポーターの認知も広がろうとしているのではないかと感じます。今期終盤では、町内のかたからの問い合わせをいただくことも出てきたことは期待できる成果だと感じます。

課題とこれからの展望

コロナの収束がなかなか見えない状態が続き、予定していた町内でのイベントが見送りになり、町内の方々に文字通訳の現場を体験してもらえる機会が殆どなかったことは、「対話サポーター」が認知される機会に恵まれなかったと同等と考えられます。これは、受講生募集にもマイナスの影響を残した。サポーター自体が認知されないと口コミの効果にもつながらず、SNS の活用を指摘されるも、文章だけでは伝わらないもどかしさだけが残る。音声認識や連携入力での音声の文字化では一定の成果は出せてきたので、今後の改善策として、ハイブリットコースで習得した技術・訴求力のある動画配信を次のステップとして活かしたい。体験してみたいという気持ちを引き起こす仕掛けづくりに。公開講座は、今までは聞こえの啓発を目的としてきたが、対話サポーターの実技体験ができるワークショップ形式に内容を見直すことで、次への展望としたい。『町内在住の方』の対話サポーターを増やすことが次期の必要な課題です。1期から3期までは技術を学ぶサポーター育成にかなりのウエイトをおいてきた。もちろん養成することが事業の目的ではあるが、この事業自体を安定して継続させるためには、実技を学ぶサポーター養成だけにかかっているのはダメなこと気づいた今、実技を担当するサポーターと広報・啓発を担当するサポーターの両者の養成が欠かせない。今後は、サポーター自体の役割も具体化して活動を深めていきたい。

昨年の2期、介護の現場実習の背景でもみえていた、身体障害者手帳保持者であっても、資格取得等の連続講義では、公的な支援が受けられない現実はまだまだ社会の中での課題とも言えます。今の制度を非難する気持ちはありません。むしろもっと浸透して誰にでも優しい制度になってほしいと願います。

障がい者への支援という観点にとどまらず、誰にでも優しいまちづくり、「支援する、される」から、一人ひとりが出来ることで社会に参加する、共助、共に作っていく播磨町の一員として、この事業を安定させ、対話サポートセンター（仮称）樹立を目指したい。誰一人情報から取り残さない共生社会に欠かせない播磨町での拠点となることを目指したい。

講座・現場実習の様子

・ 講座・公開講座風景から



● 現場実習から

